

平成七年度大会の概況

日本思想史学会平成七年度大会は、十月二十一日(土)・二十二日(日)の両日、立命館大学を会場として開催された。

第一日目は研究発表が行われた。発表者は次の諸氏である。

- | | | |
|--|----------------|-------|
| 1、曹洞宗の地藏信仰―道元・紹瑾― | (日本学術振興会特別研究員) | 清水 邦彦 |
| 2、叡尊教団の変化―運営方針と寺領に着目して― | (日本学術振興会特別研究員) | 吉原 健雄 |
| 3、心敬の無常観 | (東北大学大学院) | 菅 基久子 |
| 4、『春鑑抄』の性説について―朱子との比較― | (東北大学大学院) | 龔 穎 |
| 5、山崎闇斎の「心」と「敬」 | (筑波大学大学院) | 魯 学海 |
| 6、山崎闇斎における理気論―李退溪との比較を通じて― | (筑波大学大学院) | 巖 錫仁 |
| 7、近世前期神道説の位相―垂加神道への一視点― | (愛知県立大学) | 樋口 浩造 |
| 8、崎門派の中国・夷狄論争をめぐって | (立命館大学大学院) | 石黒 衛 |
| 9、近世前期の博物書と『大和本草』 | (日本学術振興会特別研究員) | 松村 浩二 |
| 10、「言語の道」と「文章の道」―荻生徂徠における言語認識の革新をめぐって― | (大阪大学大学院) | 宇野田尚哉 |
| 11、近世思想史のなかの揚雄―熊阪台州・大田南畝を中心に― | (東北大学) | 高橋 章則 |

- 12、亀井南冥廢黜事件考 (武蔵大学) 八木 清治
- 13、大田錦城の学問 (東北大学大学院) 福井佐枝子
- 14、三浦梅園の思想構造 (中央大学大学院) 加藤 響子
- 15、化政期国学と「黄泉」「幽冥」 (大阪大学大学院) 表 智之
- 16、鶴峯戊申の「窮理」 (東北大学大学院) 畑中 健二
- 17、幕末神道における死生観の転回—烏傳神道を中心として— (東北大学大学院) 末永 恵子
- 18、日本と中国における「革命思想」の比較—吉田松陰と章炳麟を中心に— (国際日本文化研究センター) 大学院 石津 達也
- 19、横井小楠とケンペル—華夷論克服の土台について— (久留米大学) 檜原 孝俊
- 20、「青鞨」の思考 (同志社大学) 露口 卓也
- 21、明治前期の産科学の思想的位相 (大阪大学) 金津日出美
- 22、教導職体制と報徳思想 (立命館大学) 見城 悌治
- 23、自由民権思想における国家認識 (立命館大学大学院) 内藤 辰郎
- 24、一九三〇年代の柳田国男—郷土研究の体系化と教育論の展開— (新潟大学) 藤井 隆至
- 25、柳田国男と「米」と「肉」—稲作文化論の再検討のために— (静岡県立大学大学院) 六車 由実
- 26、皇国史観と平泉史学 (皇学館大学) 田中 卓
- 27、小林秀雄の近世儒学論について (専修大学) 佐藤 雅男
- 研究発表終了後、総会が行われ、評議員会より平成六年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて評議員会より平成七年度事業計画および予算案が提案され、それぞれ評議員会案どおり決定された。ひき続き、京都パストラルにおいて懇親会が催された。

第二日目は「歴史と表象」をテーマにシンポジウムが行われた。発表者と発表題目および司会者は次のとおりである。

趣旨説明

『日本書紀』の国家史の構想――一、二の予備的考察――

一國歴史学の成立――近代日本と国史学――

戦争の語られ方

書かれたものと書きえぬこと

司会者

(防衛大学校) 石毛 忠

(立命館大学) 山尾 幸久

(東京女子大学) 大隅 和雄

(大阪大学) ひろたまさき

(大阪大学) 子安 宣邦

(千葉大学) 宮川 康子

(立命館大学) 桂島 宣弘